

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年10月14日
枚方市立第一中学校

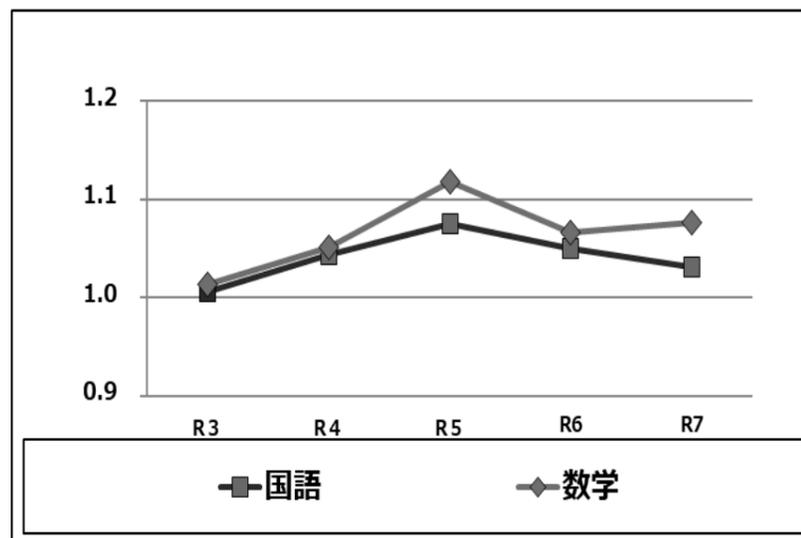
文部科学省が今年4月に実施した、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

学力調査の結果<国語・数学>

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

（全国の平均正答率を1とした経年比較）



<学力調査結果の概要>

○国語について

→本校のグランドデザインにおける「自分自身の考えを持ち、他者と意見交流することで考えを広げ、深めることができる」力の育成を目標とした授業を継続して取り組むことにより、「思考力・判断力・表現力等」のうち、特に「話す・聞く力」の項目が対全国比1.21となっており、一定の成果を感じることができました。一方で同じ「思考力・判断力・表現力等」でも、「書く力」においては対全国比0.90の問題もあり、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」趣旨の問いに対して、無解答率は0であるものの、正答する力を上げる余地がありました。

○数学について

→本校グランドデザインにおける「思考・判断・表現する力を身につけ、授業などで発表する力」の育成に向けて授業を継続して取り組むことにより、「思考力・判断力・表現力」のうち、特に「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する」趣旨の問いに対して、対全国比1.32となっており、一定の成果を感じることができました。一方で「知的・技能」のうち、特に「相対度数の意味を理解しているか」という趣旨の問いに対して、対全国比0.80となっており、技能の定着に課題を見受けました。

学力調査の結果<理科>

中学校（理科）はCBTによる調査を実施。IRT スコアをベースに結果を示しております。

IRTとは

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。項目反応理論(Item Response Theory)。異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。 ※PISA、TOEIC・TOEFL等の英語資格・検定試験、医療系大学間共用試験等で採用されている。



<参考> 素点方式（正答数・正答率）、IRT方式の比較

※視力検査を例としたイメージ
本資料はイメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式		IRT方式	
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環 (C) を見ることができたか		どの大きさのランドルト環 (C) を安定的に見ることができたか	
得点(スコア)の例	0.1 0.2 0.3 0.4	0.1 0.2 0.3 0.4	0.1 0.2 0.3 0.4	0.1 0.2 0.3 0.4
	Aさん 5問/7問 (正答率71%) >		Bさん 4問/7問 (正答率57%) <	
	Aさん 0.2		Bさん 0.3	

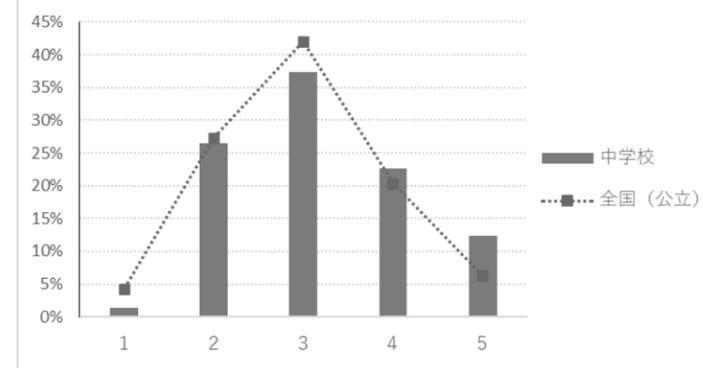
※素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなる。IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなる。

悉皆調査でIRTを導入するメリット



- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

IRTバンド分布グラフ



<学力調査結果の概要>

○理科について

→平均 IRT スコアは、各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点の平均となり、33ポイント上回る結果となりました。また、IRT バンドは難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されるのですが、バンド4・5に分布する生徒割合が全国より上回っております。特に、「エネルギー」を柱とする領域における「思考・判断・表現」で対全国比 1.61、及び「粒子」を柱とする領域における「知識・技能」で対全国比 1.58 となっており、一定の成果を感じることができました。「粒子」を柱とする領域における「思考・判断・表現」のみ対全国比 0.88 となっており、実験での課題を設定する力に課題を見受けました。

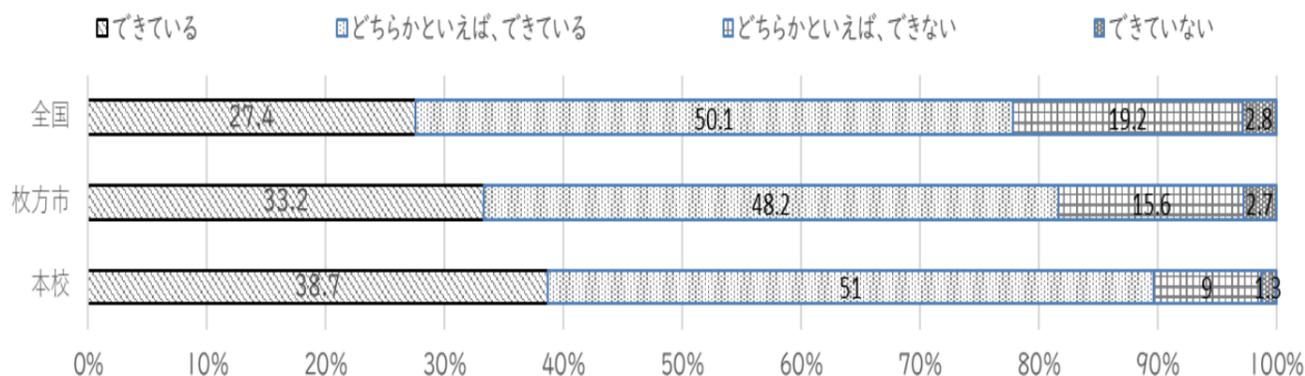
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

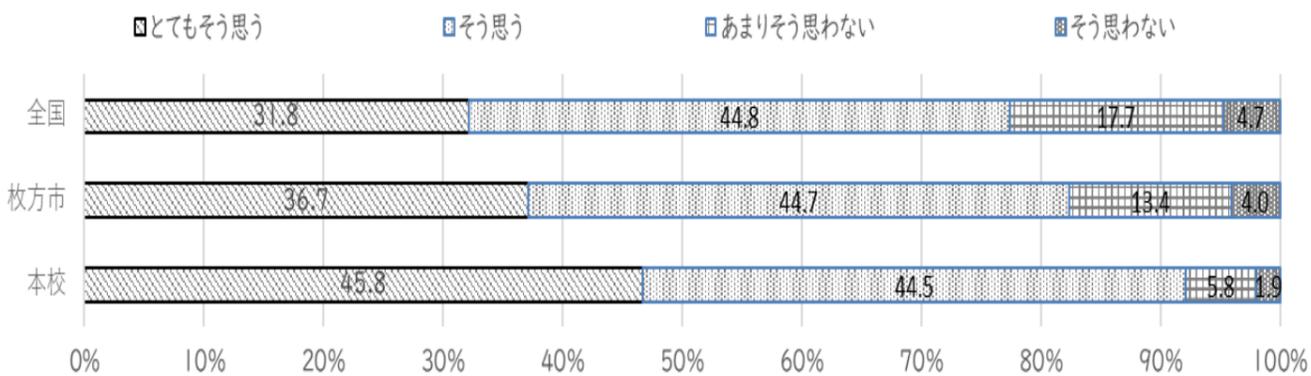
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と大阪府・全国の比較をお知らせします。

【成果がみられた項目】

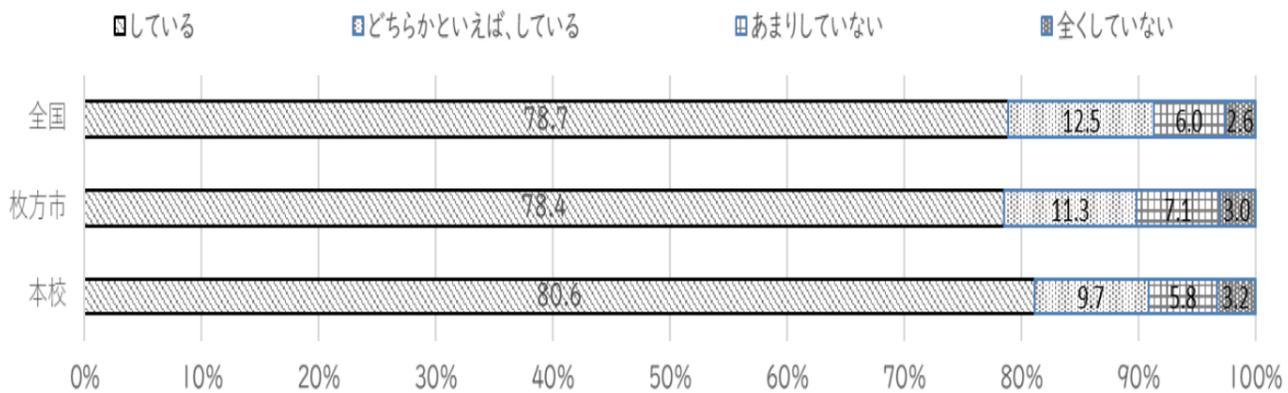
(質問内容) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



(質問内容) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか

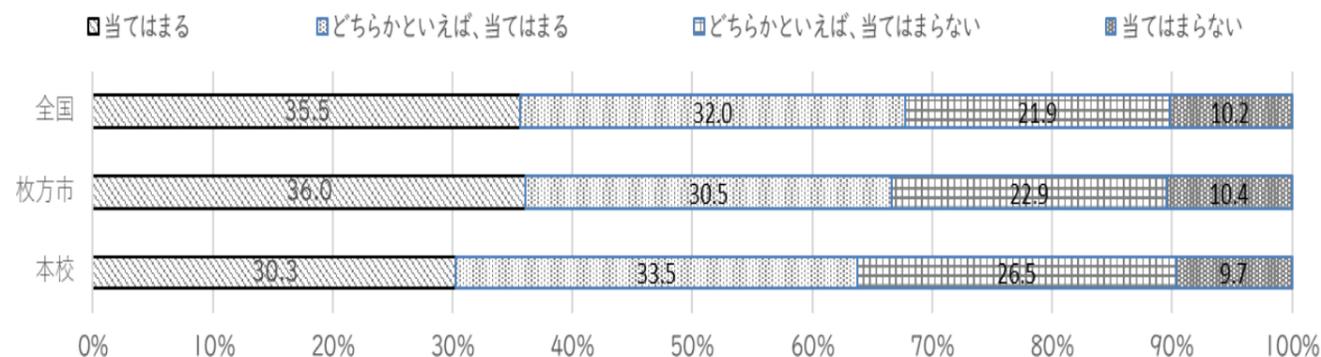


(質問内容) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



【課題が残った項目】

(質問内容) 将来の夢や目標を持っていますか



<質問紙調査結果の概要>

- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について
 →肯定的な生徒は89.7%で、全国を12.2ポイント上回り、本市を8.3ポイント上回っています。本校ブランドデザインの「学んだこと、経験したことを生かして自ら設定した課題を解決していく力」が育まれ、一定の成果が見られると推察します。
- 「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか」について
 →肯定的な生徒は90.3%で、全国を13.7ポイント、本市を8.9ポイント上回っています。「総合的な学習の時間」を軸とし、随所で自分の考えを発表する場面で挑戦すること、またプレゼンテーション技法講習会を実施し、スキルを習得することで、発信力において着実に力がついてきていると実感します。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」について
 →肯定的な生徒は90.3%で、全国から0.9ポイント下回っていますが、本市を0.6ポイント上回っています。特に、「朝食を毎日食べている」という生徒は80.8%で、全国・本市をともに上回っています。グラフはありませんが、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問においても、肯定的な生徒の割合は約90%となっていました。「早寝早起き朝ごはん」国民運動として推進されているように、生徒たちの生活習慣づくりは健全な成長に重要なことと認識しています。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」について
 →肯定的な生徒は63.8%で、全国から3.7ポイント、本市からも2.7ポイント下回っています。将来の選択において困らないように着実に力をつけ、これからの進路に向けては、教育相談等で支援し、夢や目標を見つけるスタートになればと思います。

<まとめ>

本校生徒はご家庭の協力もあり、質問紙調査からも朝食を毎日食べている状況が伺え、就寝時間等、基本的な生活習慣は概ね確立されており、学習においても学校の授業時間以外における学習時間も概ね確保されています。また、生徒質問において、プレゼンテーションに関する質問項目(ICT機器で文章を作成する、インターネットを使って情報を収集する、図・表・グラフ等を使って情報を整理する)につきましても、肯定的な生徒の割合は全国を20ポイント程度上回っています。各教科におきましても、「話す・聞く力」や「思考・判断・表現する力」も高く、自ら考え、伝える力は一定育まれている結果となっています。一方で、将来の夢や目標を持ち、短期的な幸福のみならず、将来にわたる持続的な幸福「ウェルビーイング」の向上をめざし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実、及び豊かな心を育む教育をすすめてまいります。